

## 学術大会長挨拶

県立広島大学保健福祉学部理学療法学科 教授 清水ミシェル・アイズマン

第9回の広島保健福祉学会のテーマは『住み慣れた地域で安心して暮らせるように』とさせて頂きました。誰もが住み慣れた地域や家庭でいつまでも健やかに暮らしたい……と願うことと思います。それを実現させるためにはどうすればいいのでしょうか。高齢者の方や障がいのある方、またその家族がいつまでも元気に暮らせるような、社会システム作りが重要となります。

本学術大会では、地域リハビリテーション分野の第一線でご活躍されている、はたのりハビリ整形外科 畑野栄治院長から特別講演として『在宅医療からみた親孝行のあり方』を頂きます。地域医療、在宅医療を専門とされている先生から熱い思いや最新の話を受けると期待しております。

パネルディスカッションでは、『住み慣れた地域での生活を支えるために』と題し、行政、社会福祉協議会ならびに介護保険分野から理学療法士とケアマネージャーの方々を招き、現場の生の声を聞き、よりよいシステム作りを検討する機会を設けました。

わが国は、平成12年度に介護保険制度が導入され、利用者に応じた様々なプランが作成されています。しかし、まだ制度上の問題やマンパワー不足など問題点も少なくありません。これを機会に、よりよい高齢者医療・福祉を考えることができれば幸いです。

皆様方の貴重なご意見等も頂き、有意義な大会にしたいと考えております。